

令和7年度 長岡市一般廃棄物処理実施計画の実績

1 令和7年度の取り組み（令和7年度 長岡市一般廃棄物処理実施計画 一部抜粋）

（1）発生・排出抑制

ア 啓発活動の強化

ごみの発生・排出量の抑制へ向け、市民、事業者、市が共同して取り組むとともに、市民と事業者に対する情報提供や啓発活動を行いました。

また、ごみ処理中の火災事故を防止するため、リチウムイオン電池の排出方法について周知を図るとともに、市の施設54か所における回収を実施しました。

イ 環境教育の充実

家庭から出たごみがどのように処理・処分されるか、この間の行程を理解するため、施設見学会や市政出前講座を行いました。

ウ 環境情報誌での広報

循環型社会の構築を目指し、「環境情報誌」を発行し、ごみ処理の現状やごみの減量・リサイクルの取組、ごみ出しルール等の周知を図りました。

エ 事業所への啓発

多量にごみを排出する事業所に対する指導やごみに関する事業者の責任について周知を図りました。

オ 市民への支援

たい肥化容器の利用を促進するため、容器の購入費を補助し、家庭での生ごみの減量と資源化を支援しました。

カ 食品ロスの削減の推進

地球温暖化講座及び食品ロス削減に関する記事を広報誌等に掲載し、啓発活動を行いました。また、フードバンクながおかと連携し、資源物の拠点回収（サテライト拠点）で試験的にフードドライブを実施しました。

（2）再使用・再資源化

ア エネルギー・資源の有効活用の推進

生ごみは、生ごみバイオガス発電センターで発酵・分解し、発生するバイオガスを発電等に利用しました。

また、プラスチック製品の再商品化について市民に分かりやすい分別基準や処理経費を抑えた分別収集及び再商品化ルートの選定の検討を進めています。

さらに、リサイクル可能な羽毛布団の無料引き取り等を実施しました。

イ 資源回収奨励金交付事業の実施

古紙類や金属類を集団回収した子供会等に、資源回収奨励金を交付し、資源化を推進しました。

ウ 資源物の拠点回収の実施

常設拠点と山古志、小国、川口地域にサテライト拠点を設置し、リユースびん、古着・古布、食器類、小型家電、びん・缶・ペットボトル、古紙類（新聞、雑誌・チラシ、段ボール）、使用済み天ぷら油、靴、かばん・ベルト、ミックスペーパーの排出の機会を増やし、ごみの減量と資源化を推進しました。

エ 民間のリサイクル事業の普及・活用の促進

市が認定する「ごみ減量・リサイクル協力店」の募集や、不用品リユースプラットフォーム「おいくら」についてホームページ等で周知を図りました。

2 計画収集及び直接搬入

区分		収集運搬実績			
		収集 主体	収集方式	収集 回数	収集量
ごみ	燃やすごみ (うち生ごみの発酵不適物)	委託	ステーション方式	週 1 回	46, 277 t (3, 016t)
		許可	戸別	随時	
		排出者	—		
	生ごみ	委託	ステーション方式	週 2 回	8, 160 t
		許可	戸別	随時	
		排出者	—		
	燃やさないごみ	委託	ステーション方式	月 2 回	3, 727 t
		排出者	—	随時	
	粗大ごみ	委託	各戸	随時	1, 218 t
		排出者			
資源物	びん・缶・ペットボトル	委託	ステーション方式	月 4 回	3, 230 t
	プラスチック容器包装材	委託	ステーション方式	週 1 回	3, 436 t
	古紙	委託	ステーション方式	月 2 回	4, 880 t
	枝葉・草	委託	ステーション方式	週 1 回	4, 096 t
				月 2 回	
		拠点回収方式	指定日		
	古着・古布	委託	ステーション方式	月 2 回	197 t
スプレー缶類・発火物・有害物	委託	ステーション方式	月 2 回	85 t	

※ 上記収集量には集団回収等の数量は含まれない。